



東京慈恵会医科大学

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号
電話 03-3433-1111(大代表)



東京慈恵会医科大学
創立百三十年記念事業

募金趣意書

募集期間：2010.10.1～2018.9.30

ともに歩む慈恵

施設総合建築計画



病気を診ずして
病人を診よ

高木兼寛



学祖
高木 兼寛

東京慈恵会医科大学は明治14年5月1日(1881)に学祖・高木兼寛が成医会講習所を開設したことに始まります。高木は英国セント・トーマス病院医学校における5年間の留学から帰国し、英国流の人道主義に基づき、「病気を診ることだけにとらわれることなく、病人を診る医師を育成する」ことを目指しました。このため、本学創設の理念は病める人のための医療を実践することにあります。この建学の精神は「病気を診ずして 病人を診よ」という言葉として、現在も学生はもちろんのこと全教職員・同窓生に深く浸透しています。

また、高木はセント・トーマス病院医学校のナイチンゲール看護婦学校を目の当たりして、日本における看護教育の必要性を痛感し、明治18年(1885)に日本で最初の看護婦養成所である有志共立東京病院看護婦教育所を開設しました。「病める人の治療には医の心を持った医師だけでなく、看護の心を持った看護婦が医師とともに働くことが重要である」という考えは現在も受け継がれており、「医師と看護師は車の両輪の如し」という言葉として定着しています。このため、医学科と看護学科の1年生は一緒に学修する共修科目がいくつか設定されています。

高木は研究面においても大きな功績を残しており、当時の国民病であり、命を落とす人の多かった「脚気」の原因が食事にあり、栄養の欠陥によって起こることを日本で最初の大規模臨床試験によって実証しました。この研究手法の伝統を受け継ぎ、医学科では医療情報・EBM、臨床疫学コースを設けて、臨床研究の基礎を学び、卒業後に臨床研究に従事できるようにカリキュラムが組まれています。

成医会講習所は成医学校→東京慈恵医院医学校→私立東京慈恵会医院専門学校を経て大正10年に東京慈恵会医科大学に昇格し、昭和27年に新制の大学となり、昭和31年に大学院医学研究科博士課程を設置しました。平成4年には本邦で初めて医学部の中に看護学科を設置し、平成21年に大学院医学研究科看護学専攻修士課程を開設して、現在に至っています。

平成22年(2010)、東京慈恵会医科大学は創立130年を迎えました。現在、日本の医療は様々な問題を抱え混乱していますが、本学は創立以来受け継がれてきた建学の精神を高く掲げ、医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献して参ります。

趣意書

創立130年記念事業募金延長の お知らせとご協力をお願い



創立130年記念事業募金 委員長
学校法人慈恵大学 理事長

栗原 敏

東京慈恵会医科大学は平成22年(2010)に創立130年を迎え、その折に、本学全体の施設整備を検討しました。本院外来棟は築50年を超え、老朽化が一層進み、外来診療に支障が出ないようにするためにも、新外来棟の建築が急務と考え、本院の外来棟建築を計画しました。しかし、東日本大震災によって、西新橋キャンパス全体の建物を点検・評価し、外来棟を中心とした建築計画を再検討することになりました。その経過中、平成25年9月に港工業高校跡地(都有地)が、東京都が要請する政策的医療(周産期医療、小児医療、救急、災害医療など)を行うことを条件に、50年間貸与されるという公募があったので、本学は早速応募し、50年間借り受けることになりました。この都有地の借用によって外来棟建築計画にゆとりができました。東京都との

話し合いで、都有地には新病院(仮称)のほかに臨床医師の居室、講堂(災害時の帰宅困難者のために使われます)を設けることとなりました。これによって、外来診療を継続しながら、都有地に建てられる新大学2号館(仮称)に、現在大学2号館にいる臨床教員が円滑に移動でき、また、E棟の母子センターの機能が切れ目なく新病院(仮称)へ移転できることとなります。外来棟は、大学本館と大学2号館を取り壊しその跡地に建築することになりました。このように当初の外来棟建築計画は、西新橋キャンパス全体の将来に関わる大きなプロジェクトになり、本学にとって発展の好機になったともいえます。一方、大学周辺は、国際的な副都心と位置付けられ大型の開発が進んでおり、学校法人慈恵大学が、国際的に高い評価を得ることができるようになるた

西新橋キャンパス再整備計画の実現を目指して

めにも、この機会を逃さず、西新橋キャンパスの再整備を推進することが、大学の発展にとって不可欠であると考えています。

医療・医学は日進月歩で、新しい診断技術、治療法が開発され、最近では、基礎研究の成果が患者さんに応用されるものも数多くあります。本院は特定機能病院に認定されており、新しい時代にふさわしい医療を提供していかなければなりません。また、特定機能病院には臨床研究を推進することも求められています。このように、本院外来棟を中心に病院を再編し、患者さんが安心して来院でき、安全で適切な医療を受けられるように施設整備をすることは急務です。

現在の、複雑な建物の配棟を少しでも整理し、分かりやすい西新橋キャンパスとするための第一歩として、都有地に新大学2号館(仮称)と新病院(都が要請する医療を実践します)を、そして大学現有地に外来棟を建てることによって、本学の医療、教育、研究の基盤が作られるものと確信しています。なお、新病院(仮称)と新外来棟は、地下と空中回廊で有機的につなぐ予定です。

今回の病院建築計画に続いて、第三病院と国領校舎の建て替え、現在の外来棟の跡地に建てる予定の新大学本館など、多くの事業が計画されています。これまで内部留保に努め、これらの事業が多くの借入金に頼らずに実現できるように準備をすすめてきました。しかし、物価の上昇、オリンピック

招致に伴う建築費の高騰、消費税の増税、診療報酬のマイナス改定など、資金計画を圧迫する要因が増えつつあり、これらの要因は今後も継続することが予想されます。本学は医療に励み、経費を削減し、補助金の獲得に努め自助努力していますが、それにも限りがあります。

そこで、東京慈恵会医科大学創立130年記念募金として、皆様にご寄附をお願いして参りました。これまでに、約12億円のご寄附を賜りましたが、目標額の20億円にはまだ到達していません。この募金は平成27年9月30日で終了する予定でした。しかし、西新橋キャンパス全体におよぶ再整備計画を実現させるためには、皆様のご支援がさらに必要と考え、募金期間を平成30年9月30日まで、3年間延長することを決めました。皆様のご寄附は、都有地に建てる新大学2号館(仮称)、新病院(仮称)、そして新外来棟建築に使わせていただきます。

高木兼寛は、多くの方の支援を受けて、成医会講習所、有志共立東京病院、看護婦教育所を開設し、本学の基盤を築きました。社会の共感を得て本学が歴史ある私立医科大学としての歩みを力強く進めていくためには、この西新橋キャンパス再整備計画を実現しなくてはなりません。

私たちの意図するところをご理解いただき、東京慈恵会医科大学130年記念事業募金期間を延長しますので、是非ご協力下さいようお願い申し上げます。



施設総合建築計画の概要

新大学2号館(仮称)

新病院(仮称)

新外来棟

新大学本館

創立百三十年記念事業募金要項

募金目的

東京慈恵会医科大学 教育・研究施設および病院施設の建築資金

申込受付期間

2010年10月1日～2018年9月30日

同窓会設立90周年の 節目に母校を支援しよう



東京慈恵会医科大学同窓会 会長

高橋 紀久雄

東京慈恵会医科大学同窓会は平成27年に設立90周年を迎えました。霜礼次郎前会長が東京慈恵会医科大学創立130年記念事業・募金趣意書(平成22年)の中で、慈恵大学と同窓会の強い絆の歴史を再認識されています。その中でも特に「慈恵の発展は慈恵人自らの努力の集積で有る」という言葉が印象的でした。

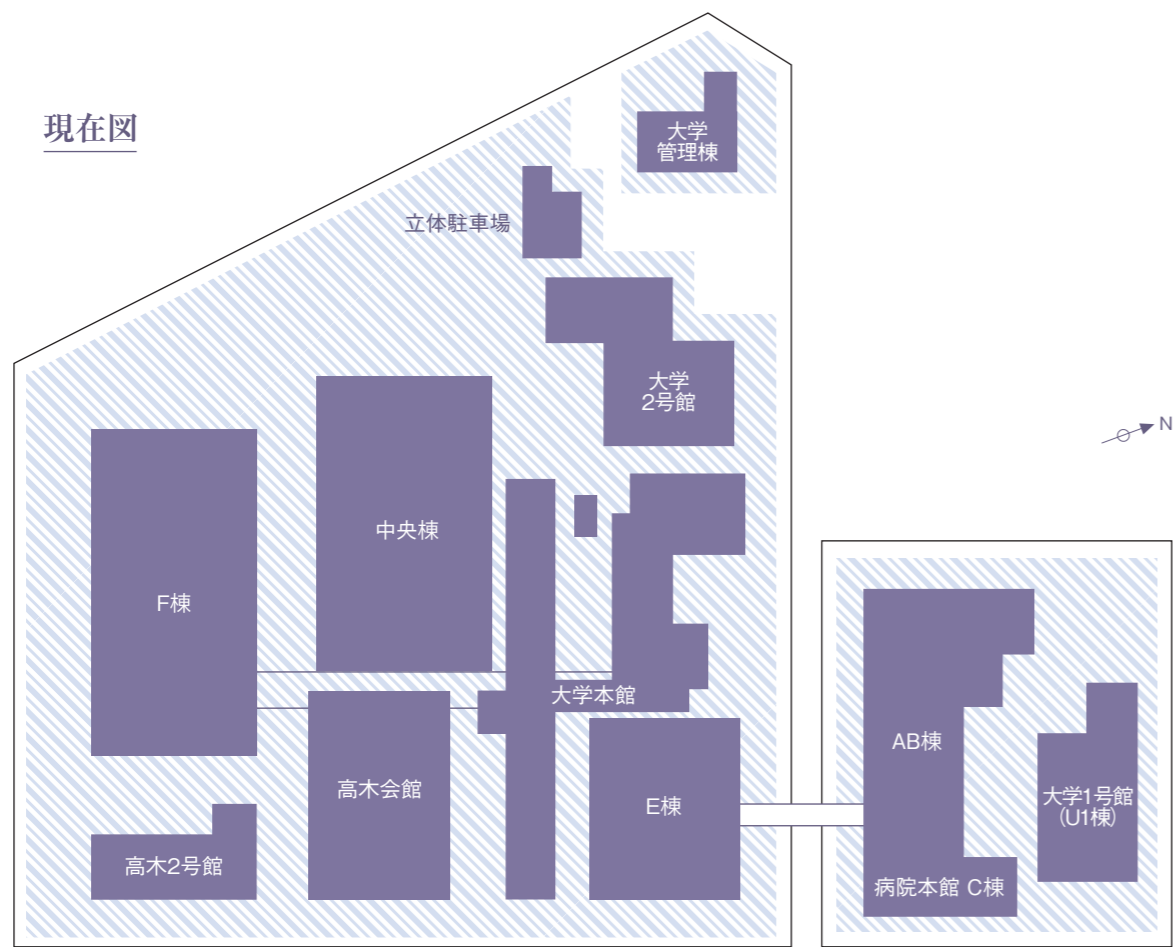
創立130年記念事業募金は平成22年にスタートして約5年が経過し、平成27年9月30日を以て終了する計画でした。この間に会員並びに関係者の方々には多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。しかしながら募金状況は、当初の目標20億円の約60%に留まっております。

大学が目指している創立130年記念事業は、膨大かつ遠大な計画であります。学祖高木兼寛先生が創立されて以来、私立医科大学の雄として弛まぬ努力で発展を続けてきた我々の母校慈恵大学は、建物の老朽化により、病院機能を十分に発揮できなくなるという構造的な危機に直面しています。一方で、東京都から隣接の都用地を貸与されたことは、東京都が本学に都の政策的医療推進を期待していることに他なりません。

大学の今後50年先を見据えた新築・増築整備計画を進め、新たな課題である東京都に期待される医療計画にも対応するため、また、最近の建設業界の状況を考慮すると、予算の大幅な見直し・増額を余儀なくされています。

今、我々の母校は「慈恵大学西新橋キャンパス再整備計画」を完遂するために、越えなければならない大きな山に直面しています。その目的の為に創立130年記念事業募金期間を延長して、目標額20億円を達成するべく皆様の更なるご協力をお願いすることになりました。未だご協力をいただいていない方、既にご寄付をされた方にも、会員はもとより大学に関係する皆様の幅広いご支援によって、偉大な先人達から引き継いできた「素晴らしい慈恵大学」を、次の世代に引き継いで行くことが、設立90年を迎えた同窓会に課せられた使命だと思えます。会員の皆様をはじめ大学に関わりの有る皆様には、本募金の趣旨にご賛同いただき、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

西新橋キャンパス整備事業と 本院外来棟建設



2010年7月現在



施設総合建築計画の概要

創立130年記念事業・西新橋キャンパス再整備計画の目的は、施設内にある施設を整理し、機能面・経済面での効率化をはかると共に、将来の建替え計画にも対応できる環境を整備することにあります。

西新橋キャンパスの環境整備は、南に病院関連機能を、北に大学関連機能を集約するという基本構想に基づいています。

西新橋キャンパスは病院機能と大学機能が南北敷地に混在し、両者の機能が著しく損なわれていたことから、西新橋キャンパスの施設整備事業を開始しました。この基本構想に基づき、これまでに創立120周年記念事業として平成12年南敷地に病院中央棟を開院しました。また、北敷地には平成14年に大学1号館を完成させました。

これらに続く施設整備計画として、本院外来棟

を含めた西新橋キャンパスの整備を創立130年記念事業として行うものです。加えて、平成26年には隣地である東京都有地を賃借できたことから、都の要請する政策的医療を行う施設も整備します。また、新大学本館の建設に合わせて国領校の整備と、新第三病院の建築も視野に入れています。

【創立130年記念事業の計画概要】

1、東京都有地での計画(新大学2号館(仮称)と新病院(仮称)の建築)

①新大学2号館(仮称)建築計画

工期：平成28年2月～平成29年6月

延床面積：約16,800㎡

階数：地上14階 地下1階

推定予算：約70億円

西新橋キャンパス 完成イメージ



施設総合建築計画の概要

②新病院(仮称)建築計画

工 期:平成29年3月～平成30年10月
 延床面積:約12,700㎡
 階 数:地上6階 地下2階
 推定予算:約75億円

2、新外来棟建築計画

工 期:平成30年1月～平成31年10月

延床面積:約32,000㎡

階 数:地上7階 地下1階

推定予算:約190億円

3、新第三病院建築計画

工 期:平成32年度頃～平成34年度頃

延床面積:未定

階 数:未定

推定予算:概算150億円

4、国領校建築計画

工 期:平成35年度頃～平成36年度頃

延床面積:未定

階 数:未定

推定予算:概算25億円

5、新大学本館建築計画

工 期:平成35年度頃～平成37年度頃

延床面積:未定

階 数:未定

推定予算:概算130億円

施設総合建築計画 募金発起人

藍澤 茂雄
相澤 純雄
相澤 良夫
相沢 義則
相曾好司郎
相曾 正義
相羽 恵介
青木 照明
青柳 徹
赤司 俊二
赤羽 清彬
秋元 博
秋元 文夫
秋山 雄一
浅沼 一成
浅野 晃司
飛鳥田一朗
足立 信一
穴澤 貞夫
阿南郷一郎
阿部 郁朗
阿部 俊昭
阿部 正和
安保 雅博
新井 達太
荒井 由和
荒木 達夫
有廣 忠雅
安澤 龍徳
安藤 秀樹
安樂 茂樹
家常 敏弘
五十嵐 良

池田 勇一
池田 義孝
池本 卓
石井 宣大
石川 栄世
石川眞一郎
石川 次男
石川 博
石塚 雄三
石本二見男
石森 義郎
磯貝 行秀
井田 博幸
伊坪真理子
井出 晴夫
伊藤 景樹
伊東 保
伊藤 洋
伊藤 宏士
伊藤 博志
伊藤 文之
伊藤 敬夫
伊藤 義彦
稲葉 敏
稲葉 義方
乾 裕昭
猪俣 俊晴
今井 健郎
今川 省
今出 進章
今村 典嗣
岩田 真
岩田 正晴

岩楯 公晴
岩本 公和
上園 晶一
植松美知男
氏家 久
牛込新一郎
牛島 定信
白井 信男
内田 賢
内田 満
内山 智雄
宇都宮一典
宇野 慶三
馬詰 良樹
梅澤 祐二
穎川 一信
穎川 晋
衛藤 義勝
蝦名 總子
尾泉 博
大井 静雄
大石 杉乃
大泉 壽郎
大川 清
大木 隆生
大草 敏史
大櫛 弘篤
大嶋 一英
太田 正治
大塚 資郎
大槻 磐男
大野 昭彦
大野 岩男

大野 京子
大野 典也
大橋 十也
大嶋 襄
大平謹一郎
大政 良二
近江 禎子
丘 茂樹
岡 尚省
岡島進一郎
岡野 孝
岡野 弘
岡部 武史
岡部 信彦
岡部 正隆
岡村 哲夫
岡村 秀樹
岡本 友好
小川 武希
奥田新一郎
奥山 則子
小澤かおり
小澤 隆一
押切優美子
小田 治男
落合 和徳
落合 和彦
落合 幸勝
小野 誠
小野寺昭一
小幡 淳美
小原 平
恩田 威一

香川 草平
柿川 房子
景山 茂
笠原 洋勇
笠間 公憲
柏木 秀幸
片岡 裕晶
勝又 壮一
勝山 直文
加藤 一人
加藤 孝邦
加藤 總夫
金子 健二
金子 省三
金子 昌治
兼平 千裕
狩野 毅
鎌田 芳夫
上條 誠
上出 良一
神谷 直樹
茅島 江子
唐澤 達信
川井 龍美
河合 良訓
川口 良人
川久保 孝
川越 忠夫
川田 忠良
川野 雅資
川村 忠夫
河村 稔明
川村 将弘

河村 学
川村 光良
川村 統勇
菅野 恒治
菊地登喜子
菊地 泰
菊地 讓
貴島 政邑
岸本 幸一
北 素子
北川 正路
北川 道弘
北原 慶幸
衣笠 泰生
木下 徹
木村 直史
草間 泰成
久保 惣平
久保 宏隆
久保 政勝
熊谷 公明
栗原 敏
栗山 哲
桑野 和善
小池 優
國府田守雄
児島 章
児島 忠雄
小島 憲明
小寺 重行
後藤 和利
小沼 康男
小林 昭夫

小林 進
小林 直
小林 睦生
小林 直樹
小林 正之
小松 一祐
小森 亮
小山 勝一
小山 勉
近藤 勇
近藤 一博
近藤 宏一
近藤 秀丸
近藤 正樹
齋藤 篤
齊藤 賢一
齋藤 文彦
佐伯 俊雄
竿代 丈夫
酒井 紀
酒井 敏夫
坂井 春男
阪口 耀子
坂詰 正巳
阪本 要一
佐久間龍良
櫻井 健司
櫻井 尚子
櫻井美代子
佐々木 敬
佐々木 寛
佐々木正峰
佐々木三男

佐々木 豊
佐藤 幸一
佐藤 俊
佐藤 彰吾
佐藤 信一
佐藤 哲也
佐藤 博
佐藤 泰雄
皿井 靖長
澤村 正
塩塚 幸彦
敷島 敬悟
篠田 伸正
篠原 健
柴 孝也
柴田 公望
清水 久盛
清水 英佑
清水 光行
霜 礼次郎
城 謙輔
小路美喜子
白井 康仁
白崎 嘉昭
白髭 章
新 智文
須賀 金彦
杉浦 典郎
杉崎 正志
杉田多喜男
杉本 正樹
助川 茂
鈴木 荘一

鈴木 孝雄
鈴木 昭男
鈴木 直樹
鈴木 博昭
鈴木 政登
須田 健夫
瀬川 豊
関口 更一
関口 千春
関沢 英一
関谷 透
銭谷 幹男
相馬 陽一
曾爾 彊
大黒 博之
高木 敬三
高木 一郎
高木 公寛
高島 尚美
高津 光洋
高塚 洋二
高橋紀久雄
高橋 則子
高橋 浩昭
高橋実貴雄
高見澤重隆
高見澤重教
武石 昌則
竹内 敏雄
武田 信彬
竹森 重
田島 育郎
田嶋 尚子

田尻 久男
田代 和也
多田 信平
多田 紀夫
立花 正一
田中 忠夫
田中 照二
田中 廣昌
田邊 惠造
田那村雅子
谷 諭
谷 吉彦
谷内 修
谷口 郁夫
谷藤 泰正
田原 卓浩
月江 英一
津久井一平
土田 正祐
常岡 寛
椿 俊和
寺坂 治
東條 克能
遠山 晃
鴫田 純一
徳田 政道
徳留 悟朗
戸田剛太郎
富井 純子
友成 博
戸谷 修二
豊田 悟
豊田 茂

豊永 義清
鳥海 純
内藤 裕郎
中井 靖典
中尾 偕主
長尾 充
中川 秀己
中島 公和
中島 敏男
長島 義弘
長洲 堯雄
中田 理
仲田浄治郎
永田 壮一
永田 裕
永野 修
中野 省三
長野 哲也
中林 敬一
中村 敬
中村 恵示
中村 昇
中村 紀夫
中村 葉二
中山 和彦
中山 信彦
南雲 吉和
並木 敦也
奈良 京子
南郷 明德
新村 真人
西浦 天宣
西川 嘉伸

西野 博一
根岸 正弘
根津 武彦
能勢 俊一
能勢 安彦
野間 健司
野村 幸史
芳賀佐和子
萩原 博道
萩原 芳彦
橋本 晏理
橋本 和弘
橋本 信也
橋本 尚詞
蓮村 哲
長谷川智子
八反丸健二
羽生 信義
羽野 寛
濱 邦久
濱 裕宣
浜口 欣一
濱中 喜代
林 栄太郎
林 進
林 博隆
原 貞夫
原 正忠
原瀬 瑞夫
原田 潤太
原田 真人
日高正八郎
平井 勝也

平岡 宮子
平田 龍三
平塚 明倫
平野 昭邦
廣津 卓夫
広原 鍾一
福島 統
福田 国彦
福永 真治
福原 宏平
福山 隆夫
藤城 敏幸
藤瀬 清隆
藤田真由美
藤野 彰子
藤見 勝彦
藤村 龍子
藤本 宣功
藤山 康広
古川 泰蔵
古幡 博
星 順隆
細谷 龍男
細谷 哲男
法橋 建
堀 誠治
堀内 博人
堀内 二彦
堀口 正晴
本郷 可夫
本田まりこ
本多 芳男
本間 太郎

本間 紀子
前川 喜平
前川 暢男
前田 新造
前田 利美
眞柄 直郎
益子 健康
眞島香代子
益田 昭吾
間瀬 豊
町田 豊平
松尾 敏一
松田 誠
松原 馨
松藤 千弥
松村 幸司
松本 文夫
眞鍋 修身
馬庭 昌人
眞野 章
馬目 佳信
丸毛 英二
丸毛 啓史
丸山 浩一
三浦 大助
三浦 靖彦
三木 信男
水梨 秀士
水之江義充
溝呂木ふみ
峰 隆志
三原 一郎
宮崎 栄一

宮嶋 建昭
宮野 佐年
宮脇 晴夫
村江 正始
村岡 伸一
村上 敏明
村上 安子
村山 雄一
持尾聰一郎
望月 幸夫
望月 蘭子
茂木 正毅
初山 俊彦
森 温理
守 正英
森川 利昭
森田紀代造
森田 一
森本 志保
森本 晉
森山 寛
諸川 薫
安田 信彦
安田 允
矢永 勝彦
柳澤 徹
柳澤 裕之
柳澤美津代
柳田 知司
山口 喜一
山下 和郎
山下 孝
山下 諄子

山下 廣
山田 昭夫
山田 毅彦
山田 尚
山之内照雄
山本 裕康
矢本 俊一
結城 研司
横井 勝弥
横打 邦男
横山 淳一
横山 秀彦
吉岡 英征
吉岡 康男
吉田 和彦
吉田 博
吉田 正林
吉田 之好
吉村 道博
米本 恭三
和田 高士
和田 紀之
渡井 光
渡邊 直熙
渡邊 盛雄
渡辺 幸康
渡辺 嘉久
渡邊禮次郎

敬称略・50音順

※当初発起人を含む為物故者名も掲載させて頂いております。